

大草谷津田いきものの里 自然観察会

目指せ！トンボ博士

木下順次（千葉市）

日 時：2014年5月18日（日）10時30分～12時

天 候：晴れ

参加者：大人22名 子ども14名

担当指導員：石嶋基次・木下順次

暑くもなく寒くもなく、風は爽やかで涼しく、陽の光は暖かいが汗をかくほどでもない。

一旦天気が崩れると極端気象に見舞われることが増え、すぐ夏や冬になってしまい、春と秋が短くなった気がすると言われるようになって久しいですが、この日、この場所の陽気は少なくとも異常気象や地球温暖化とは無縁の、一年を通して最も気持ちのよい数日間のうちの一日であったと思います。観察会開始の時刻が近づくにつれ、後から後から続々とやってくる子どもたち。はじめて大草谷津田を訪れたという方もたくさんいます。

今日はテーマタイトルからしても子どもが多いだろうと思っていましたから、あまり難しい話はせず、トンボ採りに精一杯網をふるって、おおいに子どもの野性を呼びさますことができたらいかなと思っていました。

この日トンボはあまり沢山は出現していなかったため、トンボに限らずいろいろな生き物を捕まえて観察をしようとして子どもたちに呼びかけて谷津田に降ります。石嶋さんから谷津田とトンボの関係、トンボの生態、眼の前を飛んでいるシオヤトンボの説明をしてもらったあと、トンボ採り開始です。子どもも大人も頑張って網を振っていましたが、なかなか捕獲できないので苦労していました。ここで「捕まえる楽しみ」+αの気付きを持ち帰ってもらうため、トンボについては採取できたら種名と性別・全長を確認し記録紙に記入して翅に印を付けてから採取した子ども達に放してもらいました。

子どもにとっては、トンボ採りそのものの楽しさに加えて科学する楽しさを理解するプログラムとして。

我々にとっては、ほんのささやかなものではありますが大草の自然環境の記録資料として。

できれば毎年きちんと継続調査・記録整理していきたいと思います。

二日前の下見の時にあらかじめ捕まえておいたヤゴの観察をし、飛翔しているトンボの絶対数は少ないながらも交尾や産卵の観察をすることもできました。

田んぼでは畔のクロ塗りがきれいに施され、水が引き込まれあとは田植えを待つのみとなっています（一番下手の田んぼは今まさに田植えの最中でした）。再度石嶋さんから田圃とヤゴの関係を説明してもらい、水のある田圃がトンボには欠かせない大切な場所であることを知ってもらいました。



《採取成績》シオヤ♂ 12 シオヤ♀ 2 シオカラ♂ 1 計 15

「蜻蛉とり網もつ子らの声はずむ」 ～参加者から提供の一句～